

平成23年3月期連結決算

補足説明資料

2011/5/13

AISAN TECHNOLOGY CO.,LTD



補足説明資料①

1. 平成23年3月期連結決算の総括について

平成23年3月期決算は、「会計方針の変更」に伴う保守サービスの収益認識を「一括認識」から、「期間認識」への変更対応に手間取った結果、売上高は前年から7%の伸長(個別)を残しましたが、翌期へ繰延される売上高までをカバーするには至らず、残念ながら営業損失となりました。

しかし、翌期以降に「つながる」明るい材料に確かな手応えを得た1年でもありました。一昨年から取り組んで来ましたが、モバイルマッピングシステム(以下、MMS)を活用した3次元計測については案件数と受託金額共に順調な上昇カーブを描くとともに、当社の主力製品WingNeo(ウイングネオ)シリーズの新製品「WingneoINFINITY(ウイングネオ インフィニティ)」は、既存のお客様のみならず他社製品を使用されるお客様からの乗り換えが300件を超える等、極めて高い評価を頂戴しております。

総括しますと、「会計方針の変更」から翌期へ繰り延べられる売上高まで吸収はできませんでしたが、MMSと新製品WingneoINFINITYには確かな手応えを得ていることから、翌年度に向けた足場固めの1年であったと判断しています。

2. 事業別の売上高について

(1) どの事業、分野を重点と捉えていたか？また、その結果は？

主力製品の販売市場であります「測量」市場をコアにしつつ、今後の伸長を期待する3次元計測の市場を重点市場とし、販売・開発の両面において相応の経営リソースを投入しました。

結果、目標とする売上高をほぼ達成し、3次元計測ビジネスにおける当社のポジション確立への布石が打てたと判断しています。今後のテーマは、収益力アップを掲げており、特にソフトウェアの開発に注力し3次元計測をソリューションする画期的かつ創造性豊かなソフトウェアのご提案を進めていきます。

(2) 結果は、期待していたものと比べてどうか？

結果は前述のとおりであります。やはり実際の計測業務においてMMSの利用が評価された事、そしてそれらの業務を通じて当社に3次元計測のナレッジをしっかりとストック出来た事が大きな財産です。当社はソフトウェアの開発と提案を通じて社会に貢献する旨を社是としていますことから、そのナレッジは必ず豊かな社会基盤構成における一助になると自負しています。



補足説明資料②

(3) 平成24年3月期は、どの分野を成長分野と捉えているか？

3次元計測市場と測量業務の「観測」作業を支援する業界では「外業」といわれる市場です。

3次元計測市場については、その市場の更なる拡大を充分に予見させる材料があります。それは、昨年9月に打上げが成功しました国産「初」となる準天頂衛星「みちびき」です。

みちびきの打上げによって、これまで使用していたGPSから受信する位置情報の精度向上が図られる想定から、それに伴って様々な分野において位置情報の利活用が期待されています。

現在、当社では、財団法人衛星測位利用推進センターが主導するみちびきの利用実証実験に積極的に参加し、当社が得意とする高精度位置情報解析技術の知見から、より具体的な運用に向けた提案を進めながら、みちびきの「実」利用の市場創造に努めています。

一方の「外業」市場では、これも当社が得意とする測量の観測業務作業を強力に支援する「Pocketシリーズ」の更なる拡販に注力します。平成24年3月期は、前年から進めてきました建設業向けの外業製品のリリースも予定しておりますので、従来の製品ラインアップを更に充実させて外業市場の占有率の向上に努めます。

3. 会計方針の変更について

(1) 会計方針の変更とは何か？

会計方針は継続適用が原則ですが、正当な理由がある場合に限り変更することが認められています。それ以外に会計方針を変更する場合の正当な理由については、以下の事項により判断することになります。

- ① 会計方針の変更は企業の事業内容及び企業内外の経営環境の変化に対応して行われること。
- ② 変更後の会計方針が一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に照らして妥当であること。
- ③ 会計方針の変更は会計事象等を財務諸表により適切に反映するために行われていること。
- ④ 会計方針の変更が利益操作等を目的としていないこと。

(2) なぜ今、実施したのか？

従来、保守サービスの売上の収益認識については、保守契約期間が1年超については期間対応分を収益計上し、それ以外は、保守契約の開始時に収益計上しておりましたが、保守売上の売上全体に占める割合が相対的に高くなってきたことから、収益計上の厳格化による期間損益の適正化のため、当期より契約金額を月数按分して、期間対応させる処理に変更しました。また、近い将来に導入が予想されるIFRS（国際会計基準）対応への準備の意味合いも含んでいます。



補足説明資料③

(3) 平成23年3月期の業績にどのような影響を与えたか？

率直に申し上げますと、第4四半期に投入した新製品「WingNeoINFINITY」を中心とした保守サービスの多くの収益認識が平成24年度3月期へ繰延べられています。その金額は約2.6億円であり、同金額は平成24年3月期内には全て収益認識される金額となります。また、第4四半期に傾注しがちな業界の購買特徴も見逃せない付帯要因でもあります。

(4) 今後の決算にどのような影響を与えるのか？

保守サービスの収益認識が期間按分として平坦に均される事により、これまでのような第4四半期に傾注していました売上高がある程度同様な傾向になると想定しています。保守サービスは、ストックビジネスであり、その加入数は増加傾向にありますので今回の会計方針の変更をより活かした販売政策にシフトしていきます。

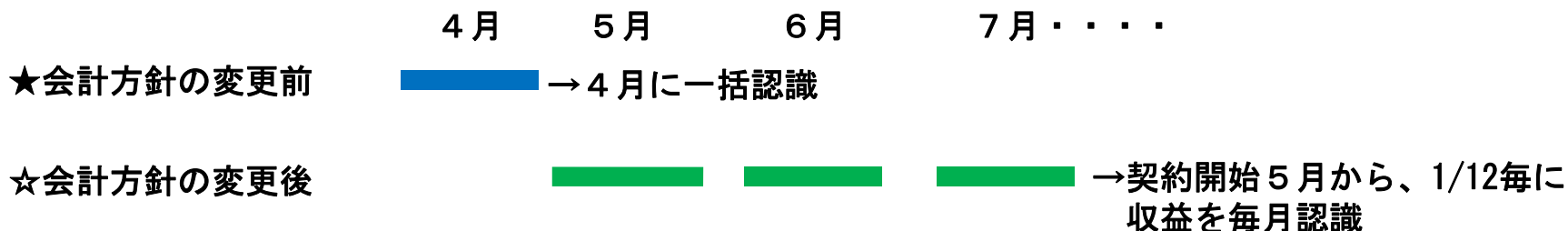
(5) 特別損失の発生要因は？

本決算において発生している特別損失は、主に会計方針の変更に伴います平成22年3月期（以下、前期）に対する「過年度修正」によるものです。会計方針の変更、つまり保守サービスの収益認識を期間認識への変更の観点から判断した場合、前期で売上計上した保守サービスの収益認識において、本決算年度に収益認識すべき金額を含んでいたとみなし、その同金額を本決算期の特別損失に「過年度修正」として計上しました。
また、「売上高」にも同金額を計上していますので、結果的には相殺される処理となります。また、この過年度修正による特別損失の計上は、本決算期に限定された処理になります。

(6) 個別財務諸表における流動負債の「前受金」が前年度より大幅に増えていますがどうしてなのでしょう？

これも「会計方針の変更」による影響です。本決算では、1.7億円の前受金を計上していますが、そのほぼ全額が本決算期で当期に売上しました保守サービスのうち平成24年度3月期に収益認識する金額となります。

☆会計方針の変更による保守サービスの収益認識の変更イメージ 4月に売上、契約開始は5月、契約期間12ヶ月





補足説明資料④

4. 東日本大震災の復興への取り組みに関して

(1) まずは平成23年3月期の業績に震災の影響はありましたか？

多少なりともありました。最後の追い込み月になります3月は11日以降の売上が伸び悩む等、お客様の購買心理に与えた影響は相当に大きかったと判断しています。また、東北地区のお客様に向けては、購入頂きました製品出荷も困難を極めました。

(2) 震災後の復興への過程において果たす役割について教えてください

被災地の復興に向けては「測量」の作業は不可欠です。官民土地境界を始めとして、様々な場所と場面において「位置を測る」作業を必要とします。当社としては、国内で唯一「測量」をソフトウェアでソリューションするメーカーとしての責任から、被災地復興に向けた特別なレンタルセットを用意し、被災地の測量業務を支援します。また、保有する2台のMMSも積極的に投入し、新しい街創りの一助になればと考えています。

(3) どの程度業績に影響を及ぼすのでしょうか？

現段階においては、読み切れない部分も多々ありますが、「測量」の業務量は確かに増加すると判断します。お客様の購買意欲等については、もう少し時間を要すると考えています。まずは、被災地の復興に向けて、当社として「すべきことは何か」を基底に様々な支援施策を展開していきます。これらは、当社ホームページにて広報します。

5. 現在の業界とアイサンの役割と位置付けは？

(1) この一年での変化を教えてください

平成23年度における当社を取り巻く環境変化としましては、国産「初」となる準天頂衛星「みちびき」の打上げ成功にインパクトがありました。それは、平成19年5月に成立しました「地理空間情報活用推進基本法」が目指す高精度地図上に「位置と時間」を付与した情報が自由に利用できる世界の実現への確かな一歩といえます。

(2) 昨年9月に打ち上げられた準天頂衛星「みちびき」の効果は？

現在、財団法人衛星測位利用推進センターが主導する「みちびき」の利用実証実験が積極的に進められており、それを通じて「みちびき」の利用効果も定性的に判断できる材料が出揃うと想定しています。他方では、東日本大震災による被災地の復興に向けては、「みちびき」の利用が大いに期待されています。

(3) 今後、どのような役割を目指しますか？

当社が得意とする高精度位置情報解析技術を基礎として、みちびきからの位置情報を正確に取得し速やかな解析を可能とするソフトウェア・ソリューションの実現を目指しています。



補足説明資料⑤

6. 株主還元について

(1) 株主還元に対する会社の方針を教えてください

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営における最重要課題として位置付けており、ROEとROAを重視した経営に努め、業績に裏付けられた成果配分を行うことと利益配分から可能な限り安定的な配当を目指す事を基本方針としています。

(2) 平成23年3月期の期末配当が4円から3円へ減配の要因を教えてください

「会計方針の変更」による特別損失の発生から、繰延税金資産を取り崩した結果、当期純損失2.9億円を計上しました。これによって、別途積立金を取り崩しまして配当原資を確保する形となりましたことから、1円減配の3円の総会議案としました。

(3) 平成24年3月期における配当の予想を教えてください

平成24年3月期は、「MMSビジネスの拡張」「衛星測位システムの先行研究」「次世代CADシステム」の三大投資を進める等を踏まえ十分に検討をいたしました結果、「3円」の配当予想としています。

7. 中期経営計画の概要とは

(1) 現在の中期経営計画の概要を教えてください

中期経営計画の概要は、①MMSビジネスを主力ビジネスに発展へ、②「みちびき」の利用を睨んだ測量における観測専用のソフトウェアの開発・販売強化、③サポートサービスのメニュー強化を3本柱として収益拡大を目指すとしています。

(2) 中期経営計画(41期～43期)の1年目を終え、進捗を教えてください

3次元計測ビジネスにおける当社のポジション確立への布石が打てたと判断しています。今後のテーマは、収益力アップを掲げ、特にソフトウェアの開発に注力し3次元計測をソリューションする画期的な創造性豊かなソフトウェアのご提案を強化するフェーズに入ります。「みちびき」に係る衛星測位の位置情報ソリューションは、利用実証実験を通じて、その具体的な利活用シーンが鮮明になると判断しています。サポートサービスについては、41期にメニューのリニューアル等を大胆に実施しましたので、その浸透を図っていきます。

(3) 中期経営計画の見直しは行うのですか？

当初の計画とのギャップが発生した場合には、速やかな見直しを進めます。



補足説明資料⑥

8. アイサンテクノロジーが目指す将来像は？

当社は創業以来、一環して「測量」に関わる業務の効率化に向けて、自社開発のソフトウェアを通じてお手伝いさせて頂いております。その基本的なスタンスは今後も変わる事なく、当社の中核として、しっかりと位置付けています。他方、「測量」の技術も時代と共に発展を続けており、MMS等に代表される最新の計測機器と21世紀の位置情報をリードする衛星測位システムに向けて、当社のソフトウェアを融合させた「新しいソリューション」の創造が求められています。

現在、戦後復興から続いた箱モノ行政は限界に達し、道路・橋等の社会資産は「造る」よりも「維持管理」するフェーズにあり、より自然と調和していく時代といえます。「測量」は、社会資産の設計・施工・維持管理には欠かせない大切な技術です。

当社は、今後も「測量」を通じて創造性豊かなソフトウェアのご提案によって、未来に向けた確かな社会資産の発展に貢献していく所存です。

WingNeo INFINITY アプリに自由度を。

Home INFINITYとは 登記 測量 ユーザー事例 お問い合わせ

可能性は無限大

測量・土木設計・登記業界のこれまでの常識を打ち破る 新感覚アプリケーション

Information 2011-04-11

岩崎トータルソリューションフェア2011でINFINITYをご紹介、オートデスクと共同出展

4月14日～15日、アイサンテクノロジー特約店株式会社岩崎様主催による「第4回岩崎トータルソリューションフェア2011」の電子国土対応ソリューションステージ～最新ソフトウェア～に、オートデスク株式会社と共同出展します。新感

WingNeo INFINITYとは

➡ INFINITYライセンスを持ち出す！

➡ 現場作業・事務所作業がひとつに！

現場での作業と事務所での作業を1台でこなす工夫を組み込みました。

WingNeo 3D Advance 特設サイトへ

ATMS パーク

アイサンテクノロジー株式会社

ホーム サポート サイトマップ お問い合わせ

アイサンテクノロジーは
測量計算の技術で復興を支援します。

MMS【モバイルマッピングシステム】は、最低限「車が通れる空間」を移動し、周囲地形を含めた高精度大量点群 (XYZ+Color) を生成します。

GPS測量や地形測量技術、そして既存の測量財産とあわせ、変化量・土量・製図・状況把握に役立つ技術です。

製品・サービス 技術情報 株主・投資家の皆様へ 会社情報

Google カスタム検索 検索

重要なお知らせ

東北地方太平洋沖地震に関するお知らせ(3月22日改訂)

宮城県三陸沖を震源とした「東北地方太平洋沖地震」におきまして、被害にあわれた皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

➡ 東北地方太平洋沖地震に関するお知らせとお問い合わせ

製品関連情報

イベント 2011年4月11日

岩崎トータルソリューションフェア2011にオートデスクと共に共同出展

4月14日～15日、アイサンテクノロジー特約店 株式会社岩崎様主催による「第4回岩崎トータルソリューションフェア2011」の電子国土対応ソリューションステージ～最新ソフトウェア～に、オートデスク株式会社と共同出展します。新感

アイサンテクノロジーからのお知らせ

2011年3月12日

国土設計・建設業に向けた測量用携帯システム「Mr. Samurai CALS」発売開始のお知らせ

当社は、株式会社シーエスエス(CALS)と共同開発した「Mr. Samurai CALS」を、3月12日より発売いたします。

当社は、株式会社シーエスエス(CALS)と共同開発した「Mr. Samurai CALS」を、3月12日より発売いたします。

WingNeo INFINITY

WingNeo 3D 官公庁向け 特別販売

今だけの特価でご購入いただけます

WingNeo VL-Manager 官公庁向け 特別販売

今だけの特価でご購入いただけます

ATMS パーク